

オリブの会通信

مجموعة الزيتون

2022年7月20日第20号 (通巻28号)
 オリブの会
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453
 tel/fax:072-737-9454
 mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
 facebook:oribunokai



ロシアが破壊した、冷戦終了後の世界秩序

2月24日に開始されたロシアによるウクライナ侵略は、冷戦後の国際秩序を根底から覆した。21世紀にこのような侵略が起こるとは、一般の人々は考えもしなかったし、侵略されたウクライナの人々ですら信じられなかった。国連が世界の平和秩序をまがりなりにも、維持し、二度にわたる世界戦争のような事態にはならないと思われてきた。

一方で、冷戦の構造が崩壊した後、米国、NATOなどの資本主義勢力が地球を支配し、ソ連であったロシアも、資本主義的な経済になり、中国などは政治は共産党が支配しているが、経済は市場経済となっている。経済はグローバル化していた。そして相互依存が深まっていた。

こうした状況の中で、パレスチナをはじめとする、帝国主義、シオニズムからの解放をもとめていた諸勢力は、ソ連という後ろ盾を失い。米欧の力に依存せざるを得ない状態に置かれた。

パレスチナにとっては、侵略者がシオニストであることによって、米国、西欧はシオニストを支援する立場にあった。

とりわけ、米国は、シオニストに牛耳られており、中東和平の仲介者には、なりえず、トランプ政権のように

シオニストを支持する政策をとった。パレスチナ解放闘争は、湾岸戦争でイラクを支持したため更に孤立化し、米国が主導する和平会議で、「オスロ合意」を押し付けられ、形だけの暫定自治を獲得したが、それはパレスチナの解放とは程遠いものであった。それがパレスチナ内部の分裂を生み出した。

パレスチナの民衆が選挙でハマスの支持を打ち出したにも関わらず、ハマスをテロ組織とする米欧によって否定され、ファタハのクーデターで、現在のアッパースに引きいられた自治政府となった。その結果として、パレスチナ内部に深刻な分裂がつけられるようになった。イスラエル、米国との行動によって、なんらかの譲歩を勝ち取ろうとする流れと、あくまでもイスラエルの支配に抵抗する勢力に分裂していた。

また、アラブ諸国にとっても、米欧に依存せざるを得ない状況の中で、パレスチナの大義は、アラブの大義ではなくなり、米国が主導する経済的な共同の中に組み入れ、さらには、反イランでの軍事同盟へと進めようとしている。パレスチナは、その中で無視され、経済的な共同に組み込もうとしている。

ロシアは、シリアのアサド政権の後ろ盾として、影響力は、限定的なものとなっている。

ロシアによるウクライナ侵略は、両国と関係をもつイ

オリーブの会通信 第20号(通巻26号)

スラエルが仲介者の立場に立とうとしたが、ウクライナのゼレンスキー大統領がユダヤ人であることなど、イスラエルがウクライナ支援に動き出すと、ロシアは、イスラエルはネオナチを支持していると非難した。後日、この外相発言をプーチンは否定し謝罪した。しかし、イスラエルも、ロシアとの対立はシリア問題を前提に、対立を望まず、ウクライナが要請したアイアンドーム防空システムを供与せず、ウクライナを怒らせることになった。

それとは別にこの機会に乗じて、ウクライナ、ロシアのユダヤ人の移民をイスラエルに多数を受け入れ、イスラエルのユダヤ人人口の拡大に努めた。

中東に大きな影響を与えているのは、食糧問題であり、レバノンなどは、その消費の80%をウクライナの穀物に頼っていた。内戦前は、小麦の生産国であったシリアも破壊された。

反対に、イスラエルは、天然ガスをエジプト経由で欧州に供給することになった。この天然ガスは、レバノンとの海上の国境問題となっている。いずれにしても、イスラエルは、ロシアの侵略によって漁夫の利をあげている。

ロシアは、国連の拒否権を持つ安保理常任理事国であり、その国が自ら、国際法に反したウクライナ侵略戦争を開始したことは、国連の機能不全であることを示し、国連の国際平和に関する役割が問われることになった。同様のことは、米国も拒否権を乱発し、国連の外での有志連合をつくって、他国を攻撃することが、「反テロ」や様々な名目で行われてきた。それと違うのは、古からの領土拡大のための戦争という性格であり、親ロシアの分離主義者を支援するという点も、同じ構造である。

ロシアは、これまでも、ウクライナだけでなく、チェチェンやグルジアなどに同様の口実で、侵略し、ロシアの勢力圏を拡大している。

こうした事態に、これまで中立を標榜してきたフィンランド、スウェーデンなどが、NATO加盟に走る事態となった。ロシアと国境を接している諸国は、ロシアの脅威を現実的なものとして、感じているからである。その結果、ロシアのプーチンはNATOの拡大阻止を言いながら、拡大を促進した。さらには、中国包囲網であるインド太平洋諸国をも結びつけることになった。日本は、ユーラシア大陸の反対側でロシアとの国境を接しており、また、中国の海洋進出に直面しており、それとNATOが結びついた形になっている。

それは、世界の構造を変えることになっている。

中東においては、中東版NATOが語られるようになり、

対イランで、イスラエル、米国、アラブ諸国での同盟の形成に向かっている。その中心に米国、イスラエルがおり、イスラエルとの国交正常化を通して、軍事的な共同へと進んでいる。アラブ諸国の脅威は、イランであり、自国の防衛のため、イスラエルと米国との共同を図っている。

イスラエルは、イランとの対峙を行いつつ、ガザのハマス、レバノンのヒズブラの2正面で軍事的な対峙に中心をおいている。

ますます、パレスチナ自治政府の存在意義が薄れている。

自治政府は、自らの存在を維持しようとするれば、イスラエル、米国に依存せざるを得ず、イスラエルが拒否し、米国の口先だけの二国家解決を言い続けるしかない。しかし、それを実現する決定的な要素は存在しないし、イスラエルは、エルサレム、西岸の実質的な併合を進めている。

ハマスや他のパレスチナ勢力は、抵抗闘争を強調するが、現在の全体的ななかでの力関係は、それも可能としない。

二国解決方式も、武装闘争による解放も、パレスチナの未来を拓けない。それだけでなく、自治政府・ファタハとハマスをはじめとするパレスチナ勢力との分裂は深刻になっている。

国際社会は、ウクライナへの支援のようにパレスチナに対しては、動かず、米国はイスラエル側についており、イスラエルに圧力をかけようとしていないし、欧州をはじめ、他の諸国は、イスラエルを口先の非難にとどめている。

イスラエルは、世論がシオニスト右翼を支持しており、右翼同士の不毛な対立で、安定した政権を作りえていない。イスラエル内の和平派は、労働党をはじめ、メレツなど少数政党であり、アラブ系の政党も力を持っていない。ベネット政権で、それらの党派、反ネタニヤフで野合したが、右派シオニストの政策がすすんだだけで、自壊した。

パレスチナ内では新たな運動、NGOなどの活動がイスラエルの弾圧にも関わらず、成長している。経済や市民社会の中に、主権を確立する運動であり、イスラエルに支配されているパレスチナ社会の主権を回復する運動として成長している。そこに現在の状況を克服する可能性を見て生きたい。また、BDS運動などの国際的な連帯運動も重要な要素としてある。



諸党派の書記長がベイルートで会談し、パレスチナ情勢の進展について議論

投稿：2022年6月27日 | 23:11

本日月曜日、レバノンの首都ベイルートにおいて、パレスチナの各党派の書記長が参加するパレスチナ会議が、ハマスの招待により開催され、パレスチナ領域における最新の動向と、様々な分野と政治レベルでこの問題が直面している危険に立ち向かうための行動メカニズムが議論された。

パレスチナ解放人民戦線副書記長ジャミール・メザー“Abu Wadiah”同志が出席した会議の間、参加者はエルサレムの街とアルアクサモスクが占領と入植者によって恒常的に受けている侵害に直面した。占領当局と入植者たちは時間と空間の分割を強制し、入植を促進し、パレスチナの人々を追い出すことを目的としている。このため、これらの計画を阻止し、パレスチナの人々を強化し、我々の聖域を守り、この問題のために地域と世界の公式および民衆レベルで動員するための二重の努力をすることが必要である事を確認した。

会議はまた、アメリカ政府が、シオニスト実体（イスラエル）を保護し、その安全を実現しようとする愚行を見直した。アメリカ政府は、そのため、我々の民族的権利とアラブ・イスラムの人民を犠牲にしてこの地域に浸透し、そのための政治・安全・経済の拡大を促進する方法で相互紛争を引き起こすことを可能としている。我々は、パレスチナ問題を民族の中心課題として、アラブ民族の合意の中心要素として回復する必要があることを強調した。そして、シオニスト実体がアラブ・イスラム諸国を脅かすことを可能にする正常化やいかなる同盟関係も拒否することを確認した。

会議では、民族の統一を達成する方法、パレスチナの内部再編、占領の終結、帰還の達成、抑留者の解放に基

づく民族プロジェクトの達成に着手することなどが話し合われた。抵抗の選択が強調され、それに対する政治的、メディア的、法的、民衆的な支持は、わが民族の戦略的な選択として強調された。

出席者は、ヨルダン川西岸、ガザ地区、エルサレムでわが民族が直面している包囲、入植、わが民族の各セクションを単一化するシオニストプロジェクトなどの課題に立ちむかい、常に真正性と能力で所属を表明する1948年の占領地内部のわが民族の不動性を支持した。占領プロジェクトとわが民族に対する人種差別と圧迫政策に立ち向かい、その参加を含む民族行動においてすべての場所と局面で団結する必要性を訴えた。

会議は、ディアスポラの難民たちが中心的な問題であり、直面している危険性について警告を発した。特にレバノンの難民の状況と彼らの人権を確保する方法、さらにはパレスチナ国家の決定へのディアスポラの参加、そして難民を彼らの家やキャンプから再定住または移動させるすべてのプロジェクトや試みの拒否を検討した。

出席者は、難民問題を帳消しにする道を開くUNRWAの役割を終らせようとする段階的な試みに言及し、この問題に全国的に、そしてあらゆる場で、私たちアラブ・イスラム諸国、さらには世界の自由民の間で立ち向かうために、政治、大衆、メディア、法律、外交行動の必要性を強調した。

会議の結論として、現段階では、共同行動のメカニズムや、加速する現場と政治の現実、民族的大義が直面する危険、それに立ち向かうための緊急行動の必要性、レバノンのガスと石油に対するシオニストの攻撃に直面したレバノンとの連帯について、適切な方式を議論するた



エルサレム(CNN) パレスチナ自治区で5月、中東の衛星放送局アルジャジーラの女性記者がイスラエル軍による急襲作戦の取材中に撃たれて死亡した事件で、パレスチナ自治政府のハティーブ検事総長は2日、弾丸の分析を米国に委託すると発表した。アルジャジーラの記者でパレスチナ系米国人のシリン・アブアクレ氏は5月11日、ヨルダン川西岸ジェニンで撃たれて死亡した。パレスチナ自治政府とアルジャジーラはイスラエル軍が意図的に同氏を射殺したと非難したが、イスラエル軍は予備調査の結果として、無差別に発砲したパレスチナ武装勢力か、同勢力と交戦中だったイスラエル兵のいずれかの銃弾が命中したと主張した。パレスチナ自治政府は弾丸の分析について、イスラエル側に公正な捜査ができるとは思えないと主張し、引き渡しを拒否していた。ハティーブ氏によると、分析はエルサレムの米大使館で行われる。米当局からは、弾丸をイスラエル側に渡さないとの確約を得ているという。分析結果が出れば、アブアクレ氏がだれに射殺されたのかを正式に断定できる可能性がある。これまでにCNNを含む報道機関が実施した少なくとも5件の調査で、弾丸はイスラエル軍の部隊がいた場所から発射された可能性が指摘されている。

中東記者死亡、イスラエルの「意図せぬ」発砲が原因の公算 米調査

7/5(火) 1:44 配信

米務省は4日、中東のテレビ局アルジャジーラの記者が5月にパレスチナ自治区ヨルダン側西岸地区で取材中に銃撃を受けて死亡した事件を巡る調査で、イスラエル軍側からの発砲が原因だった公算が大きいとする調査結果を発表した。

[ワシントン 4日 ロイター] - 米務省は4日、中東のテレビ局アルジャジーラの記者が5月にパレスチナ自治区ヨルダン側西岸地区で取材中に銃撃を受けて死亡した事件を巡る調査で、イスラエル軍側からの発砲が原因だった公算が大きいとする調査結果を発表した。同

時に「意図的」だったとは結論付けられなかったとしたほか、弾丸の損傷が激しいため、出所に関する明確な結論も得られなかったとした。アルジャジーラによると、同社のシャリン・アブアクレ記者(51)はパレスチナ自治区ジェニンでイスラエル軍の作戦の取材中に銃撃を受けて死亡。パレスチナ自治政府のアッバス議長とアルジャジーラはイスラエル軍による冷酷な殺人と非難していた。この調査についてパレスチナ自治政府のアクラム・ハティーブ検事総長は、弾丸が激しく損傷していたという結論は誤りであり、同記者は意図的に狙われたと主張。「意図的に狙われたことを示す根拠は見つからなかったという米の発表は受け入れられない」と述べた。一方、イスラエル側は兵士が故意に同記者を殺害した可能性を否定し、軍の誤射または現地でイスラエル軍と衝突していたパレスチナ側の武装集団が放った弾丸に当たった可能性があるとしている。この調査は、バイデン米大統領の中東歴訪を来週に控える中、イスラエルとパレスチナの緊張緩和にはつながらなかった。

パレスチナ外務省、イスラエルによるアルジャジーラ記者暗殺に関する米の報告を拒否

7月 05, 2022 17:45 Asia/Tokyo

パレスチナ自治政府外務省が、カタール国営衛星通信アルジャジーラの女性記者シャリン・アブアクレ氏のテロ暗殺に関するアメリカの報告を否定し、「これはシオニスト政権イスラエルへの支持という政治的声明である」としました。

イスラエル軍は5月11日、パレスチナ・ヨルダン川西岸北部の町ジェニンを襲撃し、報道取材「プレス」と明記されたジャケットを着用したカタール国営衛星通信の女性記者シリーン・アブアクレ氏を、100m~150mの距離から銃撃し、殉教にいたしました。

アメリカ国務省は報告の中で、イスラエル軍がアブアクレ氏に対し至近距離から銃弾を発射した事実を認めつつも、この犯罪の矮小化および、イスラエルに過失責任がなかったように見せかけるべく、あらゆる口実を列挙しています。

アラビア語のニュースサイト・アラビー21が5日火曜、報じたところによりますと、パレスチナ外相政務担当補佐官のアフマド・ディーク氏は、「パレスチナ人女性記者アブアクレ氏のテロ暗殺に関する調査結果についてのアメリカの声明は政治的なもので、犯罪調査にも、またアブアクレ氏の命を奪った銃弾の調査にも関係がない」と述べています。

また、「これは事前に用意された、第一級の政治的声

明であり、銃弾に関して調査されているようがいまいが同じである」としました。

さらに、「アメリカのこの声明は、イスラエル軍がアブアクレ氏を銃撃した事実の隠蔽および、さらなる対イスラエル支持のための工作である」と語っています。続けて、「パレスチナ自治政府は、イスラエルに最悪しその犯罪を隠蔽したアメリカの政治的声明を拒否する」と述べました。

最後に、「アメリカはこの声明をもって、犯罪者や殺人犯の逃亡を幫助しようとしている」とし、「アメリカ政府は銃弾を突き止めたものの、透明性のある調査を実施せず、同国政府内では一連の口実探しにより、イスラエルにアブアクレ氏暗殺の罪を着せないようにすべく一連の工作がなされた」と結んでいます。

人民戦線。シャリン・アブ・アクレに関するアメリカの報告は偏向しており、占領軍兵士による殺害を正当化している

2022年7月4日 | 21:01

本日月曜日、パレスチナ解放人民戦線は、パレスチナジャーナリストシャリン・アブアクレを殺害した弾丸の検査結果に関して出されたアメリカの報告書は、彼女を殺害した占領軍の犯罪と、わがパレスチナメディアの記者たちに対して日々行われているそのすべての犯罪行為を正当化する偏ったものであると考察している。

人民戦線は、アメリカ人が調査に関与することにそもそも反対していないことを示した。その結果は、アメリカの政権に賭ける人々に対して、その調査が占領軍とその兵士を正当化することに偏り、占領軍の犯罪、ファシズム、さまざまな形で日々現れる人種差別についてシャリンさんが伝えていた真実を殺すことに賛成であることを改めて示している。

人民戦線は、パレスチナ自治政府に対し、殉教者アブ・アクレのファイルをできるだけ早く国際刑事裁判所に提訴し、彼女の暗殺という犯罪の調査をフォローアップするよう求めた。

パレスチナ解放人民戦線

中央情報局
4/7/2022

ヒューマンライツセンター アブ・アキラ氏殺害に関する米国の調査は、司法を欺こうとするものである

掲載日 06/07/2022 (最終更新: 06/07/2022 時間: 19:52)

ガザ=マアン】パレスチナ人権センターは、ジャーナリストシャリン・アブアクレ氏の殉職に関する調査への米国の介入は、正義を誤らせる意図的で疑わしい試みであり、いかなる当事者をも拘束するものではないと断言した。

センターは声明で、それは、イスラエルの戦争犯罪者を隠蔽し、犯罪のいかにかわらず保護を与えるというアメリカの永続的な立場との関連で生じるものである、と述べた。

アメリカの政策の最も顕著な現れは、ドナルド・トランプ前アメリカ大統領が2020年6月11日に発令した大統領令で、司法長官、その補佐官、裁判所の裁判官を含む裁判所に対して、市民の訴追のために何らかの措置をとれば、財産没収、資産凍結、アメリカへの入国ビザのキャンセル、さらには逮捕という直接的脅迫が含まれていた。アメリカとその同盟国のイスラエルは、このような政策をとっている。検察官がパレスチナの事件を国際刑事裁判所の予審法廷に付託する決定を下した後、この決定には、国際刑事裁判所に援助を提供する者を犯罪者とすることも含まれており、したがって、国際刑事裁判所に情報を提供する者は、居住者であろうとアメリカ合衆国に入国するだけであろうと、全員投獄されることになるのです。

PCHRは、国際刑事裁判所の検察官に対し、パレスチナ占領地に対する確立された管轄権に従って、ジャーナリストのシャリン・アブアクレの殺害に関する調査を開始するよう求めており、この調査に対するアメリカの貢献は、イスラエルの責任を免除する明確な試みであることを指摘しました。

また、“人権団体、パレスチナ検察庁、国連が行った調査に反して、アメリカ国務省は、先週月曜日、2022年7月4日、ジャーナリストシャリン・アブアクレの殺害に関するアメリカ側の調査では、犯行の背後にいる当事者を発見できなかったと述べている。”と述べた。

報道官は、弾丸の検査は「非常に詳細」であり、「独立した第三者検査官は、米国安全保障調整官が監督する作戦の一環として」、弾丸がひどく損傷していたため、結論を出すことができず、その出所を決定的にすることができなかったと付け加えた。

しかし、イスラエル占領軍は同日、法医学的分析はイスラエルの研究所でイスラエルの専門家により行われ、アメリカの安全保障コーディネーターの代表も立ち会ったと発表した。

法律家と報道の枠組み：弾丸の引き渡しは、ジャーナリストアブアクレに対する新たな犯罪だ

掲載日 05/07/2022 (最終更新: 05/07/2022 時間: 14:32)

ガザ - マアン - 人権団体や報道機関は火曜日、パレスチナ自治政府によるアメリカやイスラエル側への弾丸の引き渡しは、ジャーナリストのシャリン・アブアクレに対する新たな犯罪であるとし、専門的ではない、政治や安全に関する調査に関するアメリカの報告書について説明した。

これは、パレスチナ・メディア・フォーラムがガザ市の本部で開催した記者会見で、メディア代表と人権関係者が参加する中で行われたものです。

ジャーナリストのシャミア・マルズークは、フォーラムを代表するスピーチで、「私たちは今日、殉職した同僚のシャリン・アブアクレに対する新たな暗殺未遂の証人であり、パレスチナ自治政府がシャリンを殺した弾丸を犯人に渡すという取引がなされた後です」と述べました。

マルズークは、「我々は、水曜日の未明に我々の同僚であるシャリン・アブ・アクレを殺した弾丸を引き渡すという米政権の要求に当局が応じたことを、大きな落胆をもって追った」と付け加えた。



公開日: 2022年6月18日 (最終更新日: 2022年6月18日 時間: 05:48)

テルアビブ - マアン - レバノン戦争に関連する古い政府の報告書が昨日金曜日に明らかにされ、ベイルート近くのサブラとシャティーラのパレスチナ難民キャンプでの虐殺の実行におけるイスラエルの役割がどれほど深く直接

的なものであったかを示しています。後に殺害された当時のカタエブ党(キリスト教右派、ファランジスト党ともいう)の指導者であったバシル・ゲマイエルは、レバノン大統領の選挙を行うために、彼に投票するために銃を突きつけて国会議員を移すところまで行き、イスラエルと和平協定に署名することを約束した。

イスラエルの新聞イエディオト・アローノスとアメリカのニューヨークタイムズで働く諜報専門家のロネン・バーグマンによって明らかにされたこれらの報告書から、虐殺に関する当時のイスラエルの軍と治安当局およびカタエブ党の指導者の関与は明らかです。

1982年9月16日と17日に約1,300人のパレスチナ人の命を奪った虐殺に直接責任があるという物語を隠すために協力しました。バーグマンは、彼の手で行われた報告書の内容は非常に矛盾していると述べました。

報告書は、イスラエル軍の参謀総長ラファエル・エイタン、そしてイスラエル軍の北部地域の司令官、アミール・ドロリ、および対外関係を担当するモサドの「テベル」部門の長であるメナヘム・ネヴォットは、大隊と多くの警備員を伴っていたと述べている。

バーグマンによれば、「エイタンは、指導者との会談中に怒っていた。そのメンバーは、5日前に、彼らの指導者とレバノンの選出された大統領、バシル・ゲマイエルのシリアの諜報機関による暗殺に対する報復として虐殺を犯した。虐殺。何百人もの死体が目撃された後、世界は荒れ狂い、彼はイスラエルを非難した。」

イスラエル人は、被害を最小限に抑えるためにこの会議を望んでいました。バーグマンは次のように書いています。

エイタンは大隊の司令官に、虐殺後の世界的な騒動がベイルートからのイスラエル軍の撤退につながるのではないかと恐れていると説明した。

ドロリは大隊に次のように提案した。「起こったことはダムールでの出来事の延長、つまりシリア軍がレバノンのキリスト教徒に対して犯した虐殺であるというナラティブをつくること。あなたが入った場所では、大隊だけでなく、キャンプ内のキャンプ間で戦闘が行われていたと言えます。」

報告書によると、「大隊の司令官の1人は、モサド当局者との会談で、ベイルートでの戦闘に関して、エリー・ホベイカ(カタエブ、レバノン軍団)の軍隊が事前にこの問題に対処すると述べた」と述べた。報告によると、ホベイカはサブラーとシャティーラでの虐殺を主導した血に飢えた殺人者のグループのリーダーです。

昨日イエディオト・アローノスがレバノン戦争の40

周年を記念して発表した報告書は、リーダーが虐殺を犯したことをドロリはよく知っていたが、彼は「虚偽の話、少なくとも一部の虐殺の犠牲者は戦争で殺されました。」

報告書に述べられているように、大隊司令官の一人であるジョセフ・アブ・ハリルは、次のように答えた。これは、日常的に、そしてぼんやりとした方法で対処する必要があります。旅団がこれを行ったことを、否定し続けることによって認めることはできません。」エイタンは、「我々は我々の立場を明確にし、彼ら（大隊）は問題を研究して決定するだろうが、事実は知られている」と述べて議論を要約した。

-ユダヤ人イスラエルとキリスト教レバノンの間の協力のための努力。

報告書は、「その戦争におけるイスラエルの目標の中には、大統領としてのバシール・ゲマイエルの就任があった。「(レバノンでの) 内部の政治活動は、イスラエル軍の継続的な存在に基づいている」とネボットはイスラエル軍と諜報機関の指導者への覚書に書いた。大隊に関しては、シリア人とパレスチナ人の妨害作業者が撤退しない限り、これは数年間続く可能性があります。」

彼はさらに、「ユダヤ人イスラエルとキリスト教レバノンという2つの異なる現象の間で、経済と文化の分野で関係を発展させるための集中的な取り組みが始まった。

.. 私たちは実際、イスラエルの関係とその地域的地位に新たな現象を目の当たりにしています。これは、第一級の潜在的、経済的、政治的力を持っている現象です。」

-シャロンとファランジスト（カタエブ）の指導者たちはベイルートを占領する予定でした

。報告書は、当時のイスラエル国防相、アリエル・シャロンが、エイタンとフランジストとともに、ベイルートを「火花」と呼んだ共同軍事作戦で占領することを計画していたことを示しています。

並行して、シャロンは、イスラエル軍がベイルートに入ることは決してないというイスラエルの政府、クネセト、世論に繰り返し誓約した。

彼は、「ベイルートへの攻撃やベイルートへの移動は提案しない」と述べた。しかし、1982年7月11日の彼の事務所での会議中にシャロンが軍に出した命令は反対でした。排除できるものはすべて排除し、その基盤を破壊する必要があります。」モルデチャイ・ツィポリ国防副大臣は、政治および安全保障問題のための内閣の会合を要求し、陸軍長官をそれに招待した。

しかし、報告書は、メナヘム・ベギン首相の軍事秘書であるアズリエル・ネボが、ジボリが警官に質問をした後、「シャロンは彼らを見ていました。彼が彼らからの

特定の答えを期待していたことは明らかであり、あなたは警官が彼の視線の下で身をかかめているのを見ることができました。」

報告書は、上級将校が密かにネボに真実を語り始めたことと付け加えた。少将の階級を持ち、シャロンが恐れていたこれらの将校の1人は、レバノン領土のイスラエル軍が承認された地域を超えて前進したことを軍事長官に知らせるために、事務所から遠く離れた場所で密かにネボと会いました。

シャロンと彼の顧問は、サブラとシャティーラの虐殺の後、イスラエルではファランジストとの協力に真の反対は表明されなかったと主張したことが知られているが、報告書は別の状況を示している。イスラエル軍情報部（アマン）の秘密文書によると、「大隊は事実を隠し、嘘をつき、問題を曖昧にする傾向があり、彼らの報告は現実の不適切さを特徴としている」と「大隊」は警告していることがわかった。戦士は、以前は彼らの支配下になかった地域に侵入するために、私たちの軍隊の存在を利用しています。彼らは彼らの存在を強化し、敵のこれらの領域を浄化するつもりです。地元住民の側では、これがスコアの暴力的な解決につながるのではないかという懸念があります。

別の文書は、9月15日から、つまりバシール・ゲマイエルの殺害後、「暗殺は、相互の得点を解決しようとするレバノンの軍隊間の二極化を強める条件を作り出し、発生する悪化は次のように包括的な内戦に発展する可能性がある」と警告した。。」

-開始は、シャロンがレバノンの首都を占領することを承認します

報告書は、バシール・ゲマイエルの殺害後、シャロンはベイルートを占領するためのベギンの承認を得たが、イスラエル政府はベイルートの占領後までこれを知らされなかったと続けた。そして、エイタンがレバノンの首都に事務所とパレスチナ解放機構の数人のメンバーが残っていると発表してから1週間後にベイルートを占領することが決定されましたが、「シャロンは突然数千人いると主張しました。（その後）シャロンは、大隊が「数千人の妨害作業者」を「浄化」するために2つの難民キャンプに入ることを許可しました。これは、シャロンが大隊にサブラーとシャティーラでの虐殺を命じたことを意味します。

暗殺から50年、 ガッサン・カナファニ氏は 生きています

2022年7月8日 記事, 特集, 動画

パレスチナ・クロニクル・スタッフ

50年前のこの日、パレスチナのラジカルな知識人ガッサン・カナファニ(36)は、レバノンの首都ベイルートで、イスラエル・モサドに爆弾を仕掛けられ、暗殺された。カナファニは、パレスチナ解放人民戦線(PFLP)の指導者であり、ジャーナリスト、知識人、活動家としても有名であった。近代パレスチナ文学の最も重要な作家の一人である。抵抗文学(Adab al-Muqawama)の概念を初めて提唱した。

1948年、ナクバとそれに続くイスラエル建国により、パレスチナの町や村の廃墟の上に一家は亡命を余儀なくされた。

カナファニは18冊の本を書き、多くの言語に翻訳され、20カ国以上で出版された。『太陽の男たち』『ハイファに戻って』『ベッド12番の死』『悲しいオレンジの国』などの著書がある。

死後、アフロ・アジア作家会議によるロータス文学賞を受賞。

50年前にイスラエルに暗殺されたにもかかわらず、カナファニは今日まで最も影響力のあるパレスチナの知識人の一人である。

(パレスチナ・クロニクル)



ガッサン・カナファニ

殉教の日 1972年7月8日

殉教者ガッサン・カナファニは、1926年にパレスチナのアクレで生まれた。彼は、パレスチナ解放人民戦線の政治局員であった…。私たちの聴衆は、彼が進歩的で大胆なジャーナリストであることを知っていた。彼は、民族的な問題をあえて擁護した結果、何度も投獄された。アラブの新聞や雑誌で活躍した。- ダマスカスの「Al-Ra'i」誌の編集者の一人であり、ベイルートの「Al-Hurriya」誌の編集者1人でもあり、ベイルートの「Al-Muharrar」紙の編集長… Al-Muharrar新聞の「Palestine」の編集長 ベイルートの「Al-Anwar」サプリメントの編集長 ベイルートの「Al-Hadaf」誌のオーナー兼編集長などを歴任した。ガッサン・カナファニはまた、繊細な芸術家でもあった。パレスチナ解放人民戦線のポスターを数多くデザインし、絵画も多く描いた。

殉教者の著書の中に A- 物語と戯曲。『ベッド12番の死』、『悲しいオレンジの国』、『太陽の男たち』- 『欺かれた者たち』の物語。扉は戯曲。私たちのものではない世界。あなたに残されたもの- 男と銃を描いた映画『アル・ナイフ』の物語、『ハイファに戻ったウムサード』。

B. 文学研究。占領下のパレスチナにおける抵抗の文学。占領下の抵抗のアラビア文学。シオニスト文学における。

C - 政治的な本。パレスチナの抵抗とそのジレンマ パレスチナの闘争とアラブ民族解放運動の歴史における特定の側面を扱った(政治的、知的、組織的)研究および論文の大規模なグループ。

1972年8月7日土曜日の朝、彼の車に仕掛けられた爆発物が彼の家の下で爆発し、姪の Lamis Hussein Najm (17歳) と共に殉教した。

(PFLPのHPより)

パレスチナ日誌

4月16日

- ・ 占領軍は、アブディスで、青年を負傷させ、逮捕した。
- ・ ウンム・アルハムでアルアクサでの占領軍の攻撃に反対する抗議のスタンディング
- ・ ウンム・アルハムでのアルアクサを支持する集会の後衝突と逮捕
- ・ エルサレム北部のシュファット検問所で衝突で青年が負傷
- ・ トルカラムの南で、占領軍が、青年を負傷させ、逮捕した。
- ・ アルーコツツ大学の付近での占領軍との対峙で窒息者
- ・ イスラエル警察は、ナザレでのアルアクサを支持する集会を弾圧し6人を逮捕した。

4月17日

- ・ トルカラムの壁の近くでパレスチナ人労働者が撃たれた
- ・ アルアクサを急襲するバスへのパレスチナ人の対峙で入植者たちが負傷
- ・ 攻撃、負傷、逮捕、入植者たちが、侵攻し、アルアクサの閉鎖。
- ・ 米国議員、タリブとオマールは、アルアクサの侵害を非難した。
- ・ ジェリコの南の市で占領軍との衝突。
- ・ 治安会議のあとで、ベネットは、我々は、軍と治安部隊に必要なことがなんでもできるようにフリーハンドを与える。
- ・ 占領軍は、トルカラムの検問所で、釈放された獄中者を逮捕した。

4月18日

- ・ 中央ヘブロンでの衝突で、イスラエルの銃弾で青年が負傷した。
- ・ 占領当局は、ユダヤ人の祝日を口実にモスLEMに対してイブラヒムモスクを閉じた。
- ・ エミレート航空、イスラエルのパレスチナ占領を祝賀する式典に参加を決定。
- ・ アルツールとジャバル・ムカベルでの占領軍との衝突で、青年が銃撃された。
- ・ ジェニン地区のヤモウンの武装衝突で、イスラエル銃弾での負傷。
- ・ 中央ヘブロンでの衝突でイスラエルの銃弾で青年が負傷。
- ・ 外務省は、アルアクサを空にする危険と占領軍による時間的分割を警告した。
- ・ 占領軍は、入植者の侵入のため、ヘブロンを中央を閉鎖した。
- ・ 占領軍は、西岸で11人のパレスチナ人を逮捕したと発表。
- ・ ヨルダンはイスラエル大使をアルアクサの侵害への抗議のために召喚した。
- ・ イスラエル軍：ガザとのエスカレーションを望まないの、労働許可を多く出す決定をした。
- ・ ヨルダンは、イスラエル領事も、アルアクサ事件で召喚した。

4月19日

- ・ ガザからイスラエルに向けてロケットが発射された、
- ・ ジェニンで、イスラエルの銃弾による殉教者
- ・ イスラエル：警察は、エルサレムでの旗の行進を承認していない。
- ・ 入植者たちがアルアクサを急襲したときに、女性たちを攻撃した。
- ・ 対立、入植者たちの行進がホメシに向かって開始された。
- ・ ナブルスの北での占領軍との衝突で、72人の市民が負傷した。

4月20日

- ・ イスラエルは、ラマダンが終わるまで入植者たちに対してアルアクサを閉鎖することを決定した。

- ・ 西岸での複数の逮捕。
- ・ 最高裁に対して、グッドフライデーへの聖墳墓協会への制限に反対すえう請願をおこなった。
- ・ 逮捕者と負傷者—1180人の入植者がアルアクサを急襲
- ・ アタラの検問所で、イスラエルの特殊部隊が、二人の青年を誘拐。
- ・ 入植者たちは、ベツレヘムの南のソロモンのプールを急襲した。
- ・ ガンツは、自治政府に、民政の拡大に責任をもって行動するように呼び掛けた。
- ・ 入植者たちは、バブ・アムドに到達しようと試みる
- ・ エルドアン：アルアクサの事件にも関わらず、イスラエルとの関係を維持する。
- ・ ハマス：占領軍と入植者の場所はアルアクサになく、時間と空間の分割は通用しない。
- ・ 国連は、エルサレムでの挑発的で、一方的な政策をやめるように呼び掛け

4月21日

- ・ 占領軍は、パレスチナ保健省の車に発砲
- ・ シェイク・ジャラの近隣で、若い女性が逮捕された。攻撃、殴打、負傷が起こっている。
- ・ 最高裁は、決定を延期—聖墳墓教会の制限なしのアクセスの権利の保持について
- ・ 占領軍の航空機がガザの標的を爆撃
- ・ ファタハは、ガザへのイスラエル侵害を非難した。
- ・ ハニエ：我々は、アルアクサへの襲撃の政策を敗北させる。これは、まだ闘いの始まりだ。
- ・ 占領軍は、エルサレムのカウンスル門の近くで少年を逮捕した。
- ・ 占領当局は、トルカラムの東のラミンの町の市民の出入りを阻止した。
- ・ イースター週間に3738人の入植者たちがアルアクサを急襲した。
- ・ ガンツ：我々は、ガザとのどのようなシナリオにも準備ができていて、必要であれば、我々は強力な反撃を行う。
- ・ ラマラの北で、入植者の攻撃で複数の市民が負傷した。
- ・ イスラム協力会議が占領軍のアルアクサへの攻撃を話し合う緊急会議を開催する。
- ・ ラピド：我々は、アルアクサ・モスクの地位を保ち、それを変更する意図をもっていない。
- ・ 入植者たちは、ナブルスの南のカリュトの水源を急襲した。

4月22日

- ・ 負傷者—占領軍はアルアクサを襲撃し、礼拝者を攻撃した。
- ・ 占領軍は、ジェニンで3人の兄弟を逮捕した。
- ・ 大統領はバイデンにエルサレムでのイスラエルの政策を止めるために介入することを求めた。
- ・ アルーヤモウンの町の青年が、占領軍の銃撃の結果死亡
- ・ ヨルダンで、エルサレムの人々を支持し、占領軍の攻撃を拒否する行進が行われた。
- ・ アルアクサ公園での占領軍の催涙ガスで数十人が負傷した。
- ・ ラマダンの3回目の金曜日で、アルアクサで15マ人が礼拝した。
- ・ ハマスは、ガザで、エルサレムとアルアクサに連帯する大デモを北部ガザで組織した。
- ・ カフル・カッダムの行進の弾圧で、占領軍の銃弾で4人が負傷した。
- ・ ベイト・ダジャンとベイタで占領軍の発砲で、数十人が負傷した。
- ・ エルサレムのバブ・シャヒーラで2人の少年を逮捕した。
- ・ 入植者たちは、ヘブロン旧市で複数の市民を攻撃

オリーブの会通信 第20号(通巻26号)

・占領軍は、ヘブロン4人の青年を逮捕、入植者たちは、市民を攻撃

4月23日

- ・ガザから周辺入植地へ2発のロケットが発射された。
- ・ Beit・ウマルの占領軍との衝突で、青年が銃撃され、数十人が窒息した。
- ・ラス・カルカルで子供のためのラマダンのタベに占領軍が攻撃。
- ・ジャーナリスト・シンジケートが占領軍によるジャーナリストを標的にすることを続けていることを非難
- ・占領当局は、ロケット発射への報復として、Beit・ハヌーンの境界を閉鎖を決定。
- ・ガザ南部と北部で占領軍は、農民と羊飼いを標的にした。
- ・ガザから、周辺入植地へ、新たなロケットがガザから発射された。
- ・ウム・アルファム：アルアクサへの占領軍の侵害を非難する行進の弾跡と4人の逮捕。
- ・3人が負傷、スリフで入植者が銃撃

4月24日

- ・ベツレヘム県のタク・アルーハデールでの占領軍との対峙で、窒息者
- ・占領軍は、警戒のレベルを上げた。そして、コンタクトラインに12大隊を追加。
- ・トルカラムの分離壁の近くで、2人の労働者が、占領軍の銃弾で、負傷。
- ・占領軍は、西岸で5人の市民を逮捕。
- ・政治家たちは、パレスチナ民族統一指導部の形成を呼びかけ
- ・占領軍は、シリワンの2人の少年を逮捕した。
- ・占領当局の航空機が「独立記念日」をイブラヒムモスクの上空で祝った。
- ・占領当局のブルドーザーがナブルス南部のプリンの土地を破壊

4月25日

- ・エジプト、ヨルダン、エミレート首脳会議で、平和を覆す、あらゆる政策を止めることがイスラエルに必要であることを強調した。
- ・レバノンから発射されたミサイルがイスラエルの空き地に落下
- ・イスラエルは南部レバノンを爆撃
- ・占領軍は、ヘブロンで逮捕キャンペーンを開始した。
- ・ガンツは、ガザの労働者がイスラエルの仕事に戻るための条件を付けた
- ・ガザ海で、2人の漁師が逮捕され、船が没収された。
- ・占領軍は、Beit・ウマルを急襲し、父とその子を逮捕した。
- ・アルーツールの10のアパートの取り壊し命令の凍結

4月26日

- ・占領軍は、早朝に逮捕した漁師を釈放
- ・アカバト・ジャブルキャンプで、占領軍の銃撃で殉教。
- ・アカバト・ジャブルキャンプへの私服による襲撃で、負傷者と逮捕者。
- ・イスラエルはエズレ検問所から労働者と承認の入国を再開する
- ・占領当局は、ガザの海で今日の夜明け前に逮捕した3人の漁師を釈放した。
- ・エジプトの安保理代表団、イスラエルのエルサレムのユダヤ化の企てに警告
- ・ヘブロンで。入植者たちが羊飼いを攻撃。
- ・子供の獄中者アサル・アルエッザの支援のスタンディング。オフエル刑務所の前で。

4月27日

- ・シリアの領土にイスラエルのドローンが墜落
- ・入植者たちが、キフィハリスの町を襲撃したとき、老人が負傷した。
- ・占領軍の航空機が、ダマスカス近隣を爆撃した。
- ・サウジは、イスラエルの占領を終わらせ、独立したパレスチナ国家の樹立の必要性を強調した。
- ・占領軍のジェニンへの急襲で、殉教者、負傷者、逮捕者。
- ・占領当局は夜明け前に、逮捕した6人の漁師を釈放した。一人は負傷していた。
- ・新聞報道：トルコがハマスの活動家たちが入国するのを拒否した。
- ・ガザの南、ラファの海で、6人の漁師が逮捕され、3隻の船が没収された。
- ・占領軍は、10人の市民を逮捕した。
- ・4人のシリア兵が、イスラエルのダマスカスへの爆撃で殉教した。
- ・ライアット・カダルの準備で、占領警察は、エルサレムに3000人を展開している。
- ・ガザの海で、占領軍は、漁師とその息子を逮捕し、彼らの船を没収した。

4月28日

- ・獄中者アブドラ・アルアルダは無期限のハンストを開始。
- ・占領軍は、西岸で予備大隊6部隊の追加の徴兵を決定。
- ・ナクサの記念日で、入植者たちがアルアクサを襲撃した。
- ・イラン革命軍の司令官がガザでパレスチナ人に演説
- ・アルアクサで、占領軍のドローンが催涙ガスを発射した。

4月29日

- ・占領裁判所は、ヘブロンでの31戸の入植地住宅の建設を承認した。
- ・占領警察は、子供をイスラエルの旗を棄損したことで、逮捕。
- ・占領軍は、エルサレムの青年をバブ・アルーアモウドから追放した。
- ・ベツレヘムの東、キサン村で青年を占領軍が逮捕
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、占領軍の銃弾で、9人が負傷。
- ・外務省は、イスラエルのアルアクサの時間的分割の企てを非難。
- ・占領軍は、48年領内の二人の兄弟をISISに属していると訴追
- ・エルサレムのバブ・アモウドで少女を逮捕。
- ・占領軍のアルアクサモスクの襲撃で、攻撃、負傷、逮捕者
- ・ベネット：ベングビールは、狂信とカオスの火でイスラエルを燃やそうとしている。

4月30日

- ・北部西岸での銃撃攻撃で入植者が殺された。
- ・民主戦線：アリエル作戦は、イスラエルの治安システムを脅かした。
- ・アルアクサ旅団は、入植者を殺害したサルフィット作戦の責任を発表した。
- ・占領軍は、アリエル作戦のあとサルフィットを孤立させた。
- ・人民戦線は、サルフィット作戦の英雄に敬意を表し、敵の追及を阻止するための民衆の努力を呼びかけた。
- ・イスラム聖戦は、アリエル入植地近くでの作戦を祝福した。
- ・エルサレムの北の木アランディア検問所で、占領軍は、すくなくとも10人の青年を逮捕した。
- ・ハマス：アリエル入植地近くでの作戦は、占領の犯罪に対する当然の反応である。
- ・アズンの衝突で、実弾で二人が負傷した。
- ・西岸の南で、入植者の攻撃で二人の兄弟が負傷。
- ・新聞報道：トルコがハマスの軍事部門のメンバーを追放した。
- ・シンワールは、イスラエルとの大戦闘の準備を呼びかけた。
- ・

5月1日

- ・ナブルスの南で、入植者たちが、市民の車を攻撃
- ・イスラエルは、西岸とガザに閉鎖をすることを決定した。
- ・イスラム運動は、マンスール・アッパースに就いて、ハマスとの衝突は我々の利益にはならない。
- ・占領軍が、西岸のいくつかの町と村を急襲し、対立と負傷者、逮捕者がでた。
- ・ナブルスの南で。入植者たちが市民の車を攻撃。
- ・ジャルズンで、占領軍の銃弾で、5人の市民が負傷した。

5月2日

- ・占領当局は、エルサレム市民の拘留を延長した。
- ・ラマラの西のニリンで占領軍の銃弾で、3人が負傷。
- ・シンベトが、イスラエル人をリクルートするためのイラン人のネットワークを暴露した。

5月3日

- ・占領当局は、15人のパレスチナ人ジャーナリストを拘束し続けている
- ・西岸の諸県での襲撃と逮捕。

5月4日

- ・占領軍は、ワディ・アルラババ近隣を襲撃し、家を占拠した。
- ・トルカラムの東で、占領軍は3人の兄弟を逮捕した。
- ・サルフィットの西の農業部屋を入植者が破壊。
- ・ハマスの代表団が、ロシアに到着した。
- ・北部ヨルダン渓谷で、入植者たちは、土地を破壊
- ・リッダの4人の若者が、逮捕された。
- ・占領当局は、アルアクサモスクでの夕方の礼拝の呼びかけを妨害
- ・占領軍は、アイダキャンプで、2人の子供を逮捕した。
- ・占領軍は、エルサレムにアイアンドームを配備した。
- ・占領当局は、数日前に逮捕したガザの商人を釈放した。
- ・入植者たちは、イブラヒムモスクにイスラエルの旗を掲げた。
- ・占領国は、マサフェールヤッタで、入植者たちによって、作物を破壊された市民に懲罰を与えた。

5月5日

- ・占領軍は、ガザから侵入しようとしたパレスチナ人を逮捕した。
- ・イスラム協力機構は、占領軍によるアルアクサの聖性に対する継続的な侵害について警告した。
- ・イスラエルは、アルアクサへの入植者たちの侵攻の許可を再開した。
- ・入植者たちは、イブラヒムモスクの敷地で花火を行った。
- ・アルビレで、占領軍への銃撃
- ・アルハデールの町で、オリーブの苗と農作物を破壊した
- ・入植者たちは、アルアクサの敷地でイスラエルの旗を掲げた。
- ・人権部局が、メキシコでの世界社会フォーラムパレスチナの解放に参加した。
- ・国連は、エルサレムの聖地の現状を保つように呼び掛けさらに行った。
- ・占領当局は、アルアクサ内で、市民を逮捕した。
- ・20年間の対立のあと、イスラエル最高裁は、マサフェールヤッタから4000人のパレスチナ人を追放することを決定した。
- ・占領軍は、アルアクサの侵害を継続、数十人が逮捕され、門で屋の祈りを行った。
- ・報告：4700人の入植者たちが4月にアルアクサを急襲した。
- ・占領軍は、ヘブロン南部のマサフェールヤッタで、市民を逮捕し

た。

5月6日

- ・更新、エラド作戦で、4人のイスラエル人が殺害され、3人が重症。
- ・プーチンはラブロフのイスラエルはネオナチを支援しているというコメントについて謝罪した。
- ・カタールはアルアクサへの入植者たちの襲撃を非難した。
- ・占領下エルサレムでバブ・アルーシルシア近くで市民が占領当局に逮捕された。
- ・占領当局は、西岸で4000戸の入植地住宅を承認。
- ・外務省：新たな入植地住宅の建設は、2国家解決の系統的な破壊。
- ・ベイト・ウマルの衝突で、窒息者が
- ・アメリカはイスラエルにバイデンの訪問の前に、入植地を止めるようにメッセージ
- ・クフル・カッダムの行進の弾圧で、占領軍の銃弾で4人の青年が負傷。

5月7日

- ・UAE外相は、エラド攻撃は、恐ろしいテロリストと表現した。
- ・アルールバン・アルーシャルキイヤでの占領軍との衝突で、窒息
- ・占領軍は、ツバス県の入植地監視の職員を逮捕
- ・ヨルダンは、イスラエル当局がヤッタからパレスチナ人を追い出そうとしている警告
- ・イスラエルは、許可なしの住民の逮捕キャンペーンを行っている。
- ・ナチスに勝利した日を記念してベツレヘムで集会と大規模な行進が行われた。
- ・カルキリヤの南で、占領軍は実弾で労働者たちを標的にした。
- ・サルフィットの西で、入植者たちは、30本以上のオリーブの木を伐採した。
- ・スリフで、入植者たちが老人を攻撃した。
- ・占領軍は、アルタワナの村で、占領当局は、鶏舎の取り壊しを通知した。
- ・アメリカ：イスラエルの入植地拡大の計画は、二国家解決の可能性をひどく傷つける。

- ・占領軍は、シラトアルハリシヤの獄中者オマル・ジャラダトの家を取り壊した。
- ・占領軍は、シュファト難民キャンプを急襲した。
- ・ジェニンの西のルマナの村で占領軍は、2人の青年を逮捕した。
- ・サルフィットの西で、占領軍が市民を殴打した。
- ・ベイトウマルで、入植者たちの襲撃の間、ゴム被膜弾で2人の青年が負傷し、数受任が窒息した。
- ・アルーシンワールの家の前で大デモ、彼の暗殺の脅しを非難。

5月8日

- ・入植者たち、ヘブロン北部、東の道路で車を攻撃
- ・サルフィットの西のハレス町で、実弾で一人が負傷し、ゴム被膜弾で2人が負傷、数十人が窒息。
- ・ナブルスの南のエイナブスの市民を逮捕した。
- ・ネタニヤフは、ハマスと対決するために、ベネット政府を打倒を呼びかけ
- ・占領軍は、西岸で7人の市民を逮捕した。
- ・ベネット：アルアクサの管理へのヨルダンの介入を拒否する。
- ・入植者たちは、ヨルダン渓谷で、土地を破壊し続けている。
- ・イスラエル軍は、エラド作戦の容疑者を逮捕した発表。
- ・入植者たちがエルサレムで車を破壊

オリーブの会通信 第20号(通巻26号)

- ・ガザから治療に来た青年がトルカラム近くで占領軍に撃殺された。
- ・占領軍は、エルアド作戦の容疑者の家を急襲。
- ・占領軍は、ツバスからの二人の青年を逮捕した。
- ・アルアクサで、青年と少女を逮捕した。
- ・エルサレムの旧市から10人のパレスチナ人が追放された。

5月9日

- ・ベツレヘム東東の入植地で、占領軍によって銃撃され殺害された
- ・入植者たちは南ナブルスの市民を攻撃し、車の風よけを破壊
- ・占領政府の閣僚が入植者に武器を取り、パレスチナ人を殺すことを呼びかけた。
- ・ Beit-Dajan の建設中の2軒の家を占領当局は、取り壊した。
- ・ベツレヘムの南西で占領当局は土地を破壊
- ・占領軍は、カラワト・パニ・ハッサンで入り口を閉鎖し、逮捕を行った。
- ・占領軍は、エラドとアリエルを攻撃した容疑者を助けた容疑で15人の市民を逮捕したことを発表した。
- ・占領当局は、ツバスの東の二軒の居住部屋を取り壊した。
- ・アルアルキブの201回目の取り壊し。
- ・占領軍は、ルマナの村を占拠し、4人の青年を逮捕した。
- ・広範なキャンペーンで、48年領内で数百人の労働者が逮捕された。

5月10日

- ・アズウンの町で、占領軍の銃弾で6人が負傷。
- ・エルサレム、シリワンの居住ビルの取り壊しを占領当局のブルドーザーが始めた
- ・ベネットは、アルアクサの警備員の数を増やすというヨルダンの要求を拒否した。
- ・ヨルダンのワクフは、アルアクサについての占領政府の指示は受けない。
- ・EUは、イスラエルに、取り壊しをやめ、追放をやめ、入植地の拡大をやめることを呼びかけた。
- ・サルフィットの西で入植者たちが17本のオリーブの木を根こそぎにした。
- ・シェイク・ジャラのエルサレム人の獄中者ムラド・アツィアが釈放された
- ・ラマラの西、ニリンでの占領軍との衝突で、窒息者がでた

5月11日

- ・35人のホームレスの人々、アルラジビー家への支援の呼びかけと建物のがれきの前で座り込み
- ・占領当局は、西岸で6人の市民を逮捕した。
- ・シャリン・アブアクレがイスラエル軍によって殺害され、パレスチナ全体がこの殺害を非難した。
- ・シリワンの町で、負傷者と対峙
- ・ヨルダン外相、占領下エルサレムの聖地の主権はイスラエルにはない。
- ・米国大使館、アブアクレの死への全面的な捜査を呼びかけた。
- ・ガザで、アブアクレの暗殺に抗議するデモがガザで行われた。
- ・ヘブロンで、占領軍は、家、部屋とテントを取り壊した。
- ・アブアクレの暗殺に抗議してジャーナリストがヘブロンで座り込みをした。
- ・アルビレのジャバル・アルタウィールで、占領軍は、青年を撃ち殺した。
- ・ホワイトハウスは、シャリン・アブアクレの殺害を非難
- ・ Beit-Hania で、殉教者シャリン・アブアクレの暗殺を非難するデモの弾圧と逮捕者

- ・ヤッタの東で、占領当局は、家々とテントの取り壊しを通知した。
- ・エルサレムで、イスラエル警察の発砲で、パレスチナ人が負傷した。
- ・占領軍は、アブアクレの殉教の状況について調査する委員会をつくることを発表。

・自治政府は、シャリンを殺した弾丸をイスラエルに引き渡すことを拒否

- ・国際アムネスティは、アルアクレの殺害でイスラエルへの懲罰を呼びかけた。

5月12日

- ・東エルサレムで占領警察は4人のパレスチナ人の少年を逮捕した。
- ・占領当局による葬儀行進への反対にも関わらず、殉教者アブアクレの遺体はエルサレムに到着した。
- ・占領当局は、西岸での4000の新たな入植地住宅の建設を承認した。
- ・シュタイエ：捜査はパレスチナが行い、結果はカタールとアメリカとに共有する。
- ・カルキリヤ：アブアクレの暗殺を非難するスタンディングが行われた。
- ・占領軍は、ヨルダン渓谷の水をためるプールを破壊
- ・占領当局の諜報局は、シャリンの弟であるアントン・アブアクレを喚問し、尋問を行った。
- ・ヨルダンは、マスフェールヤッタのパレスチナ人の家の取り壊しと住民の追放を非難。

5月13日

- ・EUは、入植地は国際法に反し、二国家解決への脅威である。
- ・占領軍は、マサフェールヤッタの入り口を閉鎖し、アイマン・オデーを拘束した。
- ・ Beit-El の入植地の近くで、占領軍の銃弾で青年が負傷。
- ・占領軍は、殉教者アブアクレの葬儀の準備でエルサレムの警戒態勢をあげた。
- ・13人が負傷した衝突と家の破壊、逮捕のあとジェニンから撤退。
- ・アメリカはパレスチナにアブアクレ殉教の捜査にイスラエルを関わらせるように圧力をかけている。
- ・カフル・カダムの行進の弾圧で、占領軍の銃弾で2人の青年が負傷し、数十人が窒息した。
- ・入植者たちは、ヘブロンで建物を占拠した。
- ・本日ジェニンを攻撃したヤمام・コマンドの占領軍の将校が死亡したと発表
- ・アルコッズ旅団が将校の殺害と他を負傷させた責任を主張
- ・数千人が殉教者シャリン・アブアクレの葬儀に参加
- ・アラブジャーナリスト連盟は、殉教者アブアクレの葬儀行進への攻撃を非難。
- ・占領軍は、殉教者シャリン・アブアクレ農葬儀で、33人の市民を負傷させ、14人を逮捕した。
- ・EUは、アブアクレの葬儀に対するイスラエルの暴力の使用を非難。
- ・ベイトの衝突で45人が負傷

5月14日

- ・15か国の欧州諸国は、入植地住宅の建設の決定を見直すようにイスラエルに呼びかけ
- ・イスラエル：宗教大臣カハネが辞任
- ・安保理：アブアクレの殉教の公平で全面的な捜査を呼びかけ
- ・占領軍は、タイベ近くで、作戦を企てた容疑で青年を逮捕した。
- ・占領軍は、ジェニンで、重症のハムザ・アベドを拘束した。
- ・



あなたの名前を書いた。私の祖国よ、エリー・チョウエイリによって書かれ、作曲された愛国的な歌を書くことによって。彼は1973年にベイルートとアメリカ合衆国の間を一種のホームシックで飛行中に書いた。この曲は大きな人気を博し、アラブ・マシュレクで最も重要な国民的歌の1つになりました。ジョセフ・アザールが初めて歌った後、デュレイド・ラーハム、ハーゼム・シャリフ、ファラー・ユセフなど多くの芸術家が歌いました。

歌詞

あなたの名前を書きます。私の祖国よ。
太陽が沈まない
私のお金も子供も
あなたの愛のために恋人はいない
ああ、最も忠実な家の家
詩をお話しします
点灯し続ける
植えられた栄光と受賞者

高い塔の上に、彼らは架空のものを立てました
そして、私の丘の剣とあなたの太陽は決して沈まない
私のお金も子供も
あなたの愛のために、恋人には何がありますか
世界との役割を包むために
そして七つの海を切ります
そして、これはあなたの不在です、私の国
光の国に戻る
そして、あなたのすべての日付を祝いましょう
良い季節はあなたを増やします
私のお金も子供も
あなたの愛のために、恋人には何がありますか

(YOUTUBE で、検索して曲を聴くことができます)



パレスチナの詩 ムハムド・ダルツウイシュ

恥ずべき土地

これは、私たちが住み、私たちに住み着く、閉ざされた土地である。預言者と将軍の短い会談ができるほど広くはない、閉ざされた土地。二羽の鶏が雌鶏とその誇りをめぐって争えば、その羽は壁から飛び出す。鳩の雄と雌が交尾するにも、親密さのない閉ざされた土地。恥ずべき土地、夏には黄色い土地、棘が岩の表面に刻みを入れて時間をつぶす土地、たとえ我々の詩がその反対を唱え、樂園描写のアンソロジーで供給したとしても、自分のアイデンティティを保とうとする人々が感じる美しいものに対する抱擁力を満足させる。私たちは、自発的に作成されることを要求される公式および詩的な文書の語り手であり、空は証拠を与えるためにその多くの作品を決して放棄しないことを知っています。閉ざされた土地、そして私たちはそれを愛し、生きていようと死んでいようと、それが私たちを愛していると信じている。私たちはこの地を愛しながら、この地が図々しい笑いや、尼僧の祈りや、隣人の詮索好きな目が届かないところに洗濯物を干すには十分ではなく、翻訳ソネットの14行目を書くには十分でないことを知っているのです。外敵とまともに戦えるほど大きな面積もなく、偽りの平和の前文を作るために人々が集まれるほど大きなホールもない、閉ざされた土地である。にもかかわらず、あるいはそれゆえに、人々は、不満を抱く神が、招かれざる客から隠れるための隠れ家として、この地を選び、すぐに我々の雄羊の角を盗んで武器とし、聖なる洞窟から遠ざけたと言うのです。

おいしいパレスチナ

茄子とひよこ豆の シチュー



シンプルな味付けの濃厚で香ばしいシチューは、家族みんなで楽しめる一品です。すべての材料をひとつの鍋に入れれば、驚くほど簡単に作れ、長く置けば置くほど味が混ざり合う。

材料

4人分 - 所要時間1時間

なす 1本
ズッキーニ 1本
コートレット 1個
白タマネギ (大) 1個
トマト (刻んだもの) 2缶
ひよこ豆 350g
ニンニク 3片
パセリ 1束
唐辛子 1本
クミンシード 小さじ1杯
ドライタイム 小さじ1杯
1 小さじ1杯のパプリカ
オリーブオイル 大さじ2

作り方

玉ねぎとにんにくは粗みじん切りにし、オリーブオイルと一緒に厚手の鍋に入れて強火で加熱する。その後、茄子とズッキーニを大きめの角切りにし、クミン、タイム、パプリカ、刻んだ唐辛子と一緒に鍋に入れる。

さらに5分ほど強火で炒め、トマト缶と熱湯100mlを加える。沸騰したら弱火にする。

30分以上沸騰させた後、ひよこ豆と刻んだコリアンダーを加える。さらに10分ほど煮込み、ご飯と焼きたてのピタパンを添えてできあがり。

守ろう！オリーブの木を カンパのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500番
名称：オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番)：〇九九店 (099)
預金種目：当座
口座番号0303500



6月3日テヘランは、IAEAの事務局長が、テヘランを訪問する前にイスラエルを訪問したことを公平性を書くものと批判



6月8日レバノン、カラシでのイスラエルのガス採掘を避難。EUは、イスラエルとエジプトと天然ガス供給で合意。



6月12日シリワンで解体された自分の家で、結婚式をあげた。



6月27日、日系のパレスチナ人で、ソプラノ歌手のマリアン・タマリさんが、パレスチナのテキストに自ら作曲した歌を録音した

今号の内容

変貌する世界秩序の中でのパレスチナ・・・・・・・・・・1

ベイルートでの諸党派の会議での議論・・・・・・・・・・3

シャリン殺害の検証をめぐって・・・・・・・・・・6

サブラ・シャティーラ虐殺に関する報告書・・・・・・・・・・8

パレスチナ日誌・・・・・・・・・・9

パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・13

パレスチナの詩・・・・・・・・・・14

おいしいパレスチナー・・・・・・・・15

トピック・・・・・・・・・・16



6月28日アハメド・マナスラ君は、長期の勾留で、精神的肉体的に危険な状態にあるのに、テロ行為を行ったとして、イスラエルは釈放を拒否した。彼は13歳で逮捕された。



7月2日ダモン刑務所で、沐浴のあと、意識不明になって死亡したサーディア・ファラージ・アッラーさん。64歳。4か月拘束されていた。